

第1
特集

木づかい推進月間



武田双雲さん



乙葉さん

木づかい生活応援団



中嶋朋子さん



須藤元気さん

国産材、使って減らそうCO₂
3.9
GREENSTYLE

「木づかい」とは…

我が国の森林資源は、人工林を中心に充実しつつありますが、木材自給率は依然2割と低い水準です。国産材が利用されないことが、間伐の遅れなど、森林が有する多様な公益的機能の発揮に悪影響を及ぼしています。また、地球温暖化対策として、二酸化炭素を長期にわたって吸収・固定する木材の利用が注目されています。このような状況を踏まえ、木材、とりわけ国産材利用の意義を広め、実需の拡大につなげるため、平成17年度から国産材利用に関しての普及啓発活動を強化し、国民運動として「木づかい運動」を行っています

二〇〇五年度のスタートから本年で四年目を迎える「木づかい運動」が、一〇月の「木づかい推進月間」に合わせた集中展開を行なう。本年度は、これまでの「木づかい応援団」に「生活」の二文字を加え、「木づかい生活応援団」として、国産材利用を通じた「木のあるライフスタイル」を主に訴求してゆく。「木づかい生活応援団」には、女優でエコロジストの中嶋朋子さん、元格闘家で引退後は作家活動を行う須藤元気さん、新進気鋭、稀代の書道家であり自身も国産材住宅に住まう武田双雲さん、女優・タレントでありながら一児の母でもある乙葉さんの四名が、これまで応援団を務めている「プロ野球マスターズリーグ」に代わって就任。ポスター(二種)、パンフレット、シンポジウム、フォーラムなどを通じて、彼らが圧倒的な支持を受けている若年・青年層に対して「木づかい生活」を訴求してゆく。中でもポスターは、武田双雲氏による「和木」の書の書下ろしをフューチャーした斬新なデザインとなり、作品としても注目される。

循環型社会を実現する エコバリューウッド

CO₂排出量の増加による温暖化や環境汚染が地球規模での課題となっている現在、積水化学工業株式会社では、未利用の国産材、特に切り捨て間伐材を有効に活用する取り組みを積極的に進めています。

研究に研究を重ねた結果、開発されたのが、循環型の新しい社会に適合するエコバリューウッド。エコロジーの観点に立ったこの木材は住宅解体材や

間伐材などの小径木や曲り木などを原料として新たに再生されています。間伐材は製紙や木質ボード、燃料に利用されていますが、多くはそのまま放置されるなど有効利用されていないのが現状です。こうした中、品質が不均一な未利用の森の原料を少しでも長く炭素源として固定化し、生活に有効利用するために、均一で安定した木質材料に再生できないだろうか？ という発想から、二〇〇一年に設備開発が始まりました。

エコバリューウッドの特長はチップ

状に砕いた木材を、天然素材を使った接着剤等の技術を用い、蒸気プレスで圧縮し、一体化。木材の持つ繊維の強さを最大限に発揮させたことにあります。チップの繊維方向を揃え、水分状態を均一に調整し、圧縮させているので反りや曲がりがなく、樫の木の約二倍の硬さと精度の高さを持つ新しい木材として現在、注目されつつあります。さらには従来の木材に比べ、大断面の製材品が提供できることも特徴です。二〇〇六年の秋から製品として実際に使われているエコバリューウッドは洞爺湖サミットでの書齋テーブルや下駄箱、森林公園の看板に採択されたほか、マンションの間仕切りパネルや

ドア、レストランのカウンタートップやパーティションに使用されるなど、様々な用途で活躍し始めています。

また、アーティストの坂本龍一氏が中心となり、設立された「more trees」限定の「BE@RBRICK」(表紙写真)はエコバリューウッドがパーツごとに切削加工されたもの。手づくりの温かみがある木製ベア(予約限定発売)は、エコ世代の新たなシンボルと言えるでしょう。大切な地球の資源である木はあますことなく使って、次世代に受け継いでいく。積水化学の挑戦は、まだまだ続いています。

エコバリューウッドとは…

未利用木材(林地残材・解体木材等)を材料とした高強度・高精度なエンジニアードウッド。



間伐材、林地残材、廃材等

破碎・分級



配向・プレス



切断・加工



エコバリューウッド